

特別研究 (Thesis Work)					
専攻	選択・必修	開設時期	単位数	授業形態	担当
環境建設	必修	2年	8	研究	特別研究担当教員
<p><b>【授業の概要】</b>  約2年間にわたりそれぞれの分野で研究を行い、技術者、研究者として直面する問題を解決する能力、創造性等を養う。研究にあたっては最先端の理論、技術、解法などの情報を自主的に収集し、常に新しい取り組みができるよう心がけ、自らの分野の専門知識を深める。最終的には学会発表を通じて、得た研究成果を外部で評価できるように努力する。</p>					
<p><b>【学修の進め方】</b>  各研究テーマに対して、特別研究担当教官の指導より計画的に研究を進める。1年終了時、中間発表会で進捗状況を報告し、2年終了前に、成果を特別研究論文にまとめ、特別研究発表会にてプレゼンテーションを行う。</p>					
<b>【授業の概要】</b>					
<p>各担当教員の指導のもとに研究計画を立て、特別研究を進める。  環境建設工学専攻の特別研究担当教員が主に実施している研究テーマを以下に挙げる。</p> <p><b>専攻の区分：土木工学、建築学</b>  <b>原隆（構造系）：構造部材の耐力特性に関する研究</b>  ・鉄筋コンクリートシェル構造の耐力解析  ・仮設構造物の強度変形解析  ・歴史的建造物の構造特性の分析と修復手法の研究</p> <p><b>橋本堅一（材料系）：モードIIIき裂変形様式の破壊に関する研究</b>  ・材料のモードIIIき裂変形様式の破壊靱性評価に関する検討  ・マグネシウム固化材コンクリートおよびモルタルの利用に関する研究  ・石積み構造物の耐力と保存に関する一考察</p> <p><b>田村隆弘（構造系）：鉄筋コンクリート構造の性能に関する研究</b>  ・鉄筋コンクリート部材のひび割れに関する研究  ・鉄筋コンクリート構造物の耐久性に関する研究  ・コンクリート舗装に関する研究</p> <p><b>海田辰将（構造系）：老朽化した鋼構造物の維持管理に関する研究</b>  ・腐食した鋼構造物および鋼部材の残存耐力評価  ・鋼構造物の合理的な点検法・性能回復技術  ・耐候性鋼材の耐久性向上に関する研究</p> <p><b>専攻の区分：土木工学</b>  <b>上俊二（地盤系）：各種地盤材料の力学特性に関する研究</b>  ・マグネシウム系固化材による改良土の力学的特性に関する研究  ・超音波を用いた細粒材料の減容化特性に関する研究  ・豪雨および特殊土壌に対応した法面保護フィルターの開発に関する研究</p> <p><b>佐賀孝徳（水理系）：乱流の組織構造と流速変動特性に関する研究</b>  ・3次元角柱周りの組織構造に関する研究  ・組織構造に誘起される瞬時流速変動に関する研究  ・高層建築物周囲に形成される流れ場の特性</p> <p><b>渡辺勝利（水理系）：開水路流れの乱流構造の解明と制御に関する研究</b>  ・シグザグ粗度による湾曲流制御法に関する研究  ・段落ち流れの側壁付近の乱流構造に関する研究  ・柔軟植生を有する開水路流れの乱流特性に関する研究</p> <p><b>島袋淳（材料系）：廃材や環境を考慮した土木材料に関する研究</b>  ・廃石膏、フライアッシュを用いたコンクリートに関する研究  ・竹筋コンクリートのすべり特性に関する研究  ・各種固化材を用いたコンクリートに関する研究</p> <p><b>専攻の区分：建築学</b>  <b>古田健一（建築計画系）：地方都市における生活利便施設再配置に関する研究</b>  ・地方都市における公共交通網形成計画に関する研究  ・地方都市中心市街地の活性化に関する研究  ・地方都市中心市街地の歩行者優先道路化に関する研究</p> <p><b>目山直樹（建築計画系）：安心・安全な都市・建築空間の構築に関する研究</b>  ・地域社会と連携した通学路安全対策の仕組みづくりに関する研究  ・防災教育を通じた防災まちづくりの手法に関する研究  ・地方都市の都市計画と都市施設整備の関係性に関する研究</p> <p><b>中川明子（建築計画系）：歴史的遺産の保存活用に関する研究</b>  ・古代ギリシャ建築の施工技術に関する研究  ・中澤千嘉治の社寺建築に関する研究  ・アテネのアクロポリスにあるローマとアウグストゥス神殿の石材接合技術に関する研究</p> <p><b>平栗靖浩（建築環境系）：音、空間、人に関する研究</b>  ・ノイズマップを活用した騒音評価に関する研究  ・多群会話空間における会話しやすさに関する研究  ・屋外音響伝搬シミュレーションに関する研究</p>					
<b>【到達目標】</b>		社会の要求を解決するためのデザイン能力が発揮できる。			
<b>【徳山高専学習・教育目標】</b>		C2	<b>【JABEE基準】</b>		I(2)f,h
<b>【評価法】</b>		成績評価については、学修の成果（特別研究論文）（50点）、研究に取組む姿勢（30点）、最終報告会（20点）として、各成績評価基準に基づき100点満点で評価し、60点以上を合格とする。また、学協会において1回以上発表すること（学外発表）を単位認定のための必須条件とする。			

【テキスト】	特別研究論文集など、必要な資料は担当教員が提示する。					
【関連科目】	環境建設工学で学んだ全ての科目が関連する。					
【成績欄】	前期中間試験 【           】	前期末試験 【           】	前期成績 【           】	後期中間試験 【           】	後期末試験 【           】	学年末成績 【           】